



キッズチャレンジキャンプ②

令和元年11月9日(土)～10日(日)

【目的】 幼児の自発的な活動としての遊びを促すために、本所に特設した「ツリーハウス」での遊びや森歩き、野外炊飯等を通して、感じる力や気付く力、考えたり試したりする力とよりよく生活しようとする心情や態度などの基礎を育む。

【参加者】 23家族66名(4歳児10名, 5歳児8名, 6歳児9名, 兄弟8名, 保護者31名)

【プログラムの内容】

1日目 13:30 はじめの会
14:00 親子遊び教室
16:00 冒険の広場であそぼう①
17:30 室内あそび

2日目 9:30 冒険の森を歩こう
11:00 冒険の広場で遊ぼう②
11:45 終わりの会
12:00 解散

親子遊び教室



はじめ、家族対抗じゃんけんゲームをした。その後、親子で体を使った遊びをし、最後にみんなで新聞紙を使った遊びをした。参加者の皆さんが、はじめの緊張も忘れて、たくさん笑い合えた。



冒険の森を歩こう



山口大学附属幼稚園教諭の高田先生から、植物の話聞きながら森を歩いた。「くろもじ」のさわやかな匂いを嗅いだり、「柿」や「野イチゴ」を食べたり、色々な感覚で自然を感じることができた。また、子どもたちは90分間歩き続けたり、ロープを使って急な上り坂を登り切ったり、自分の力でやり切った体験から、最後はみんないい表情でゴールできた。

冒険の広場であそぼう①



子どもたちは「ツリーハウス」で自由に遊んだ後、包丁でソーセージを切って、マッチで火をつけて、串に刺して焼いて食べた。初めての体験に怖がりながらも、たくさんチャレンジできた。

室内あそび



夜は、「平均台」、「コロコロあそび」、「玉入れ」、「ディスクナイン」、「タグ鬼」などを順に回りながら遊んだ。平均台を渡ったり、球を投げたりと、幼児期に身に付ける「36の動き」の中からいくつかを取り入れ、子どもたちは様々なチャレンジをしていた。

冒険の広場であそぼう②



様々な遊びができる場を作り、子どもたちが自分の好きな場所で遊んだ。色々な遊びにチャレンジする子もいれば、自分の気に入った場所で何度も繰り返し遊んでいる子どももいた。最初は木登りやロープ渡りを怖がっていた子どもが、何度も挑戦し、どんどん上達していた。子ども同士が関わって一緒に遊んでいる姿も多く見られ、最後のお別れは少し寂しい表情も見られた。

【参加者の声】 今まで積極的に言葉で言えなかったこともはっきり言えるようになって成長を感じました。子どもが色々なチャレンジが出来て泣きながらもとても楽しそうでした。火つけ(マッチ)体験や包丁で切ったりするときは家では慎重になってしまいがちですが、周りのみんながやっていたり、挑戦しているのを見て子ども本人もやる気が出て参加することができました。山歩きも、最後まで一人で歩ききったので親としてもとても嬉しく思いました。

【成果】 1回目のキャンプ落選者に案内を送り、申込者は全員当選にした。新規の落選者を出さないよう、広報は各園に数枚ずつ送り、配布ではなく配架していただいた。定員20家族に対し23家族の応募となり、応募者全員に参加いただくことができた。23家族中19家族から「4」、4家族から「3」の評価をいただき、事業全体への満足度82%を得た。ツリーハウス周辺の利用団体向けのプログラム案を本事業の一つのプログラムとして行った結果、アンケートで90%以上の満足度を得た。来年度へのプログラム化へ継続していく。

【課題】 感想に「一つ一つのプログラムが楽しいので、もう少しじっくりと1つずつやりたかったと思いました。」とあったように、もっと活動ごとの時間をしっかりとる必要がある。そのためには、1日目の開始時間が、2日目の終了時間の変更を検討する必要がある。